

まちづくり先導事業

まちづくり先導事業

被爆 70 周年を契機に、被爆 100 周年を見据えて、目指すべき世界に誇れる「まち」の実現に資する事業を「まちづくり先導事業」として位置付け、まちづくりの新たな一步を踏み出す。

都市構造と三つのエリアの設定

広島市は従来、三角州（デルタ）の街と呼ばれ、その中で様々な機能が完結していた。

しかしながら、周辺町村との合併により市域が大幅に拡大し、山間部から丘陵部、平地、島しょ部など、様々な地勢を有する都市となり、地域ごとに機能を分担し合いながら発展してきた。

世界に誇れる「まち」を実現するに当たっては、地域ごとの機能や特色を再確認しつつ、それらに磨きをかけるとともに、地域間の交流・連携を深めていくことが肝要である。

こうした地域を、図のように、「デルタ市街地」と、それを取り囲むように開発された「デルタ周辺部」、さらにその外側にある「中山間地・島しょ部」の三つのエリアに設定する。



<デルタ市街地>

高次な都市機能が集積し、活発な経済活動が展開されている。また、中心部には紙屋町・八丁堀地区の商業施設を中心とした都市空間と、広島城跡、中央公園、平和記念公園、平和大通りといった公共空間とが程よく調和した街並みが形成されている。

<デルタ周辺部>

住宅団地を中心に、居住の場として市民の生活を支えるエリアが広がっている。また、西風新都では、「住む・働く・学ぶ・憩う・護る」という複合機能を備えた都市づくりを推進している。

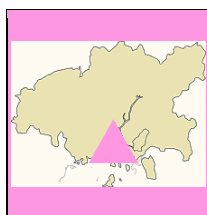
<中山間地・島しょ部>

市民が日常的に触れ合える豊かな自然が広がっている。また、人に心の豊かさをもたらす、温かみある森林や穏やかな島々が存在し、新鮮で豊富な食材をもたらす農林水産業の営みがある。

まちづくりの戦略

- ◎ 市民の誰もが、エリアごとの特色、都市的魅力・自然的魅力を容易に享受できるように、それらを一層引き立てる。
- ◎ ヒト・モノ・カネ・情報の好循環を生むために、「デルタ市街地」・「デルタ周辺部」にかけて“公共交通を中心とした四つの循環”（「バスによる循環」、「路面電車による循環」、「西風新都内の循環」、「西風新都・デルタ間の循環」）を形成する。

1 デルタ市街地でのまちづくりの展開



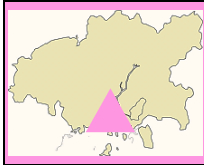
「楕円形の都心」を中心に、国内外から多くの人を呼び込む都市機能を集積し、それらを繋ぐ交通ネットワークとして、バスや路面電車による循環を生み出すとともに、文化の薫り漂う街並みと、楽しく歩いて寛げる安全な歩行者空間の形成、交通結節点周辺の機能強化により、市域のみならず、中四国地方のエンジンとして活力やにぎわいを生み出す。

(1) 国内外から多くの人を呼び込む都市機能の集積	
広島駅周辺地区のまちづくりの推進 (都市整備局都市機能調整部)	広島駅周辺地区の市街地再開発等を着実に推進するとともに、再開発後の同地区が紙屋町・八丁堀地区と並ぶ「まち」として持続的に発展していけるよう、地区内の事業者等によるエリアマネジメント活動を推進する。
都市計画制度を活用した都心部の活性化 (都市整備局都市計画課)	セットバック等を条件に建築基準法による容積率等の制限の一部を適用除外とすることが可能となる、“街並み誘導型地区計画”などの都市計画制度の活用により、土地利用ニーズを高め、民間ビルの建替え促進による都心部の活性化を図る。
Hiroshima Free Wi-Fi プロジェクト (経済観光局観光政策部)	外国人観光客の滞在期間中の満足度を高め、更なる観光客の増加等につなげるため、公共施設を中心に整備を進めている無料公衆無線 LAN について、周遊性の高い市内中心部（広島駅から平和記念公園まで）の商業施設等への設置を促進するとともに、観光情報の提供等を行う。

(2) 都市機能を繋ぐ交通ネットワークの形成	
広島駅南口広場の再整備等 (道路交通局都市交通部)	利用者の利便性向上の観点に立った公共交通ネットワークの形成を図るとともに、広島駅周辺地区で進展する市街地再開発事業等と一体的なまちづくりを推進するため、路面電車の進入ルートを高架とする駅前大橋ルートによる南口広場の再整備に取り組む。併せて、循環ルートの整備等による沿線地域の利便性の確保及びにぎわいの創出等に取り組む。
観光レンタサイクル事業 (道路交通局自転車都市づくり推進課)	自転車都市としての広島の新たな魅力の発信に向け、国内外の観光客等の来街者が市域内の観光施設等を快適に巡るための自転車レンタルシステムについて、利用者ニーズ等を把握した上で、ポートの拡充など事業規模の拡大や、持続可能な運営システムの構築に取り組む。

(3)	楽しく歩いて寛げる安全な歩行者空間の形成	
<p>楕円形の都心づくりを支える歩行環境の整備</p> <p>(道路交通局道路計画課)</p>	<p>楕円形の都心における回遊性の向上とにぎわいの創出に向け、「広島駅周辺地区の歩行者ネットワーク計画」と「紙屋町・八丁堀地区の歩行環境整備計画」を策定する。また、両地区をつなぐ「旧西国街道」のルートについて、観光客等に「現在」、「過去」、「未来」の広島を感じさせるような「歩行者空間の整備方針」(再び極める懐かしい道 さいごくかいどう)を策定し、これらの整備に取り組む。(※キャッチフレーズについては、現在検討中。)</p>	

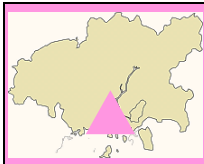
(4)	交通結節点周辺の機能強化	
<p>西広島駅周辺地区のまちづくりの推進</p>	<p>西広島駅周辺地区において、JRと路面電車、バスの乗り換え利便性の向上など、交通結節機能の強化を図るとともに、計画的な市街地整備に取り組むことにより、地区の拠点性を向上させ、駅周辺にふさわしい都市空間の形成を図る。</p>	
<p>西広島駅北口地区のまちづくり</p> <p>(都市整備局都市整備調整課)</p>	<p>西広島駅北口を、拠点地区にふさわしい市街地にしていくため、交通結節点整備等との整合を図りながら、計画的な市街地整備と都市機能の強化を図る。</p>	
<p>西広島駅周辺地区交通結節点整備</p> <p>(道路交通局都市交通部)</p>	<p>西広島駅周辺地区の拠点性を向上させ、新たな都市空間の形成を図るため、南北自由通路の整備と駅舎のバリアフリー化、南口駅前広場の再整備、北口駅前広場とアクセス道路の整備を、北口地区のまちづくりと一体的に推進する。</p>	



6本の川が流れ、都市部にありながらも、緑豊かな自然に触れることができる環境を生かし、都市と自然の融合を誰もが一体的に体感し、快適で居心地よく過ごすことのできる空間を創出することによりデルタの魅力 را再興する。

(5) 都市と自然の融合によるデルタの魅力の再興

美しい川づくり <small>(企画総務局分権・行政改革推進課)</small>	猿猴川について、県市が連携して河川環境改善（ごみ・ヘドロ対策）、河川空間・河岸の整備を実施することにより、「水の都の象徴的な空間」としての水辺づくりを進め、都心部における新たなにぎわいの創出や来広者の回遊性の向上を図る。
河岸緑地整備事業 <small>(都市整備局公園整備課)</small>	人々に憩いや交流の場を提供し、「水の都ひろしま」を象徴する美しい都市景観を形成する河岸緑地の整備を推進する。
水辺のライトアップ事業 <small>(経済観光局観光政策部)</small>	京橋川オープンカフェが両岸に設置されることに伴う地元住民のにぎわいづくりの気運の高まりを支援することとし、この地区の水辺のライトアップ事業を実施する。
比治山公園「平和の丘」構想の具体化に向けた検討 <small>(企画総務局政策企画課)</small>	比治山公園の自然的魅力と都心の都市的魅力とを一体的に体感するとともに、一望する街並みから平和を実感できる、本市の魅力的な新たな拠点とするため、「比治山公園『平和の丘』構想」を策定し、再整備を行う。

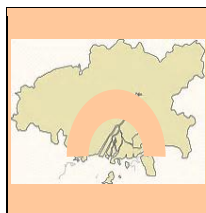


世界遺産「原爆ドーム」を中心に、平和都市を象徴する都市環境づくりを進め、「迎える平和」を一層推進し、世界中から訪れる人々が平和への思いに触れ、核兵器のない平和な世界の実現に向けた原動力を生み出すことのできるエリアを形成する。

(6) 平和都市を象徴する都市環境づくり

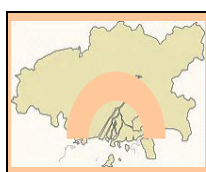
旧広島市民球場跡地の活用 <small>(都市整備局都市機能調整部)</small>	旧広島市民球場跡地を含む中央公園は、平和記念公園などとともに、戦災復興のシンボルとして整備されてきた地である。旧広島市民球場跡地については、こうした経緯を踏まえつつ、都心の新たなにぎわい拠点としての活用を図る。
広島大学旧理学部1号館の保存・活用 <small>(都市整備局都市機能調整部)</small>	広島大学旧理学部1号館は、かつての学都広島象徴であるとともに被爆建物でもあり、「知の拠点」にふさわしい保存・活用を図る。
平和記念公園の環境改善 <small>(都市整備局緑政課)</small>	平和記念公園内のトイレを、ユニバーサルデザインに対応し、清潔感のあるトイレに建替え、平和への思いを持って訪れる世界中の人々が快適に利用できるよう改善する。
基町プロジェクト <small>(中区地域起こし推進課)</small>	広島市立大学と中区役所が連携し、創造的な文化芸術活動を通じて、基町住宅地区の魅力づくりや活性化を促進する。

2 デルタ周辺部でのまちづくりの展開



アストラムラインの延伸（検討中）等によって、都心へのアクセスを容易にするとともに、住宅団地には、子育て世帯等の若年世帯の入居を促し、高齢者世帯と子育て世帯がバランス良く居住するようにすることで、地域の活力を維持しながら、心通い合う地域コミュニティを再生し、地域の課題を住民同士が支え合いながら、その解決に取り組むことのできるまちを目指す。

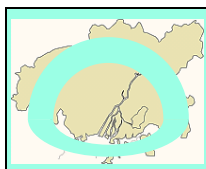
(1) 心通い合う地域コミュニティの再生	
住宅団地の活性化	人口減少や高齢化の一斉の進行により、生活利便性の低下やコミュニティの希薄化など様々な問題が現れている住宅団地について、30年後においても住み続けられるまちづくり、多様な世代が集うコミュニティの再生を目指し、活性化対策を講じる。
“まるごと元気”住宅団地活性化補助 (企画総務局政策企画課)	団地住民等が主体的に行う「住宅団地活性化プラン」の作成や空き家等を活用した住民間の交流拠点づくりなどの取組を支援する。
“近くて安心”親子近隣居住助成制度 (企画総務局政策企画課)	子育てや生活支援・見守りなど親子間の支え合いの促進、地域コミュニティの次世代の担い手の確保などを図るため、子育て世帯の親世帯の近くへの住替えを支援する。
住宅団地における住替え促進モデル事業 (都市整備局住宅政策課)	空き家の活用や若年世帯等の転入促進を展開しようとする自治組織の取組に対して、空き家所有者へのリフォーム補助、入居者への家賃補助、入居募集の情報発信など必要な支援を行う。
老朽危険空き家対策事業 (都市整備局建築指導課)	市民の生活環境への悪影響を防止し、安全・安心なまちづくりを推進するため、老朽空き家の実態を把握し、所有者に対する適正管理の指導や除却支援等の検討を行う。



エリア内の各地域では、固有の歴史や伝統、文化など、地域の魅力を生かした特色あるまちづくりを進める。特に、西風新都は、幹線道路のネットワーク化や、JR山陽本線とアストラムラインとの接続により、「住む、働く、学ぶ、憩う、護る」という複合機能が集積した広域的な拠点とする。

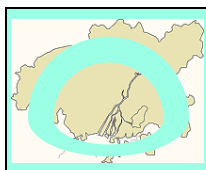
(2) 地域の魅力を生かした特色あるまちづくり	
西風新都の都市づくりの推進 (都市整備局西風新都整備部)	西風新都において、「西風新都内の循環」を生み出す環状線を整備し、また、交通のスマート化や平地部のまちづくりを推進し、市民が生き生きと暮らし、働き、集うような活力にあふれる拠点地区を形成する。
安佐動物公園の活性化 (都市整備局緑政課)	平和で豊かな社会の存続に貢献することを運営の理念とする安佐動物公園が果たしてきた社会的意義を継承しながら、幅広い層に受け入れられる観光資源としての新たな魅力の創出に取り組む。
植物公園の活性化 (都市整備局緑政課)	自然観察の機会を提供し、植物に関する知識の普及と自然保護の推進を図るとい植物公園が果たしてきた社会的意義を継承しながら、幅広い層に受け入れられる観光資源としての新たな魅力の創出に取り組む。

3 中山間地・島しょ部でのまちづくりの展開



豊かな自然、歴史や伝統を引き継ぎ、人々にやすらぎと心の豊かさを与えるエリアであり続けるためには、地域社会の担い手が不可欠であることから、地元中小企業の振興や、農林水産業の支援など、雇用の維持・創出や地域産業の活性化を図る。

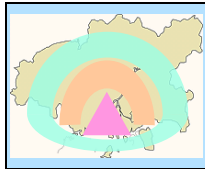
(1) 雇用の維持・創出と地域産業の活性化	
中山間地・島しょ部における中小企業の活性化支援事業 (経済観光局ものづくり支援課)	中山間地等における中小企業の雇用の維持・創出等を支援し、産業の活性化を図る。
農業継承円滑化支援事業 (経済観光局農政課)	中山間地をはじめとする全市域を対象に農業後継者の経営初期支援を行うとともに、“ひろしまそだち”製品の販路を拡大し、安定的な収入の確保と、地産地消を推進することで、本市農業の振興を図る。



魅力的な地域資源を生かし、地域の活性化を図るとともに、訪れる多くの人々に、従来にも増して潤いと憩いを提供できるエリアを形成する。

(2) 地域資源を生かした地域の活性化	
小学校跡施設を活用した中山間地域の活性化事業 (教育委員会施設課)	小河内小学校跡施設を拠点として、「地域おこし協力隊」を活用した地域づくりを進めることにより、学校統合を契機とした中山間地域における新たな活性化モデルとする。
魅力ある島づくり (企画総務局政策企画課)	似島において、「地域おこし協力隊」を活用し、地元住民や来島者がいつでも気軽に立ち寄ることができる交流・活動拠点の開設・運営などを行うことにより、コミュニティ再生を柱とした活性化を図る。

4 全市域でのまちづくりの展開



アストラムラインの延伸（検討中）やバスの活性化などにより公共交通体系づくりを推進し、「循環」を基調とした集約型都市構造を実現するとともに、高齢者の地域支え合いや、「協同労働」のモデル事業など、全市域において地域の支え合いを促進する。

(1) 集約型都市構造の実現	
立地適正化計画の策定 （都市整備局都市計画課）	容積率緩和や国の財政支援等の措置が活用可能となる「立地適正化計画」を策定し、住宅や生活サービス施設の適正な立地を促進することで、集約型都市構造の実現を図る。
公共交通体系づくりの推進 （道路交通局都市交通部）	「西風新都・デルタ間の循環」を生み出すアストラムラインの延伸（検討中）や、「路面電車による循環」を生み出す循環ルートの整備、「バスによる循環」を生み出す路線の再編など、集約型都市構造を実現するための公共交通体系づくりを推進する。
バスの活性化 （道路交通局都市交通部）	デルタ市街地では、都心部のバス路線の適正化とそれに合わせた路線の新設・再編など、デルタ周辺部や中山間地では、生活交通の最良な交通モード（路線バス、乗合タクシー等）の設定など、バス事業者等と一体となってバスの活性化に取り組む。

(2) 地域の支え合いの促進	
高齢者地域支え合いモデル事業 （健康福祉局高齢福祉課）	地域包括支援センターが、民生委員・児童委員、地区社会福祉協議会、町内会・自治会などの様々な活動主体のコーディネーターとなって、高齢者を地域全体で支え合う仕組みを構築するためのモデル事業を実施する。
民生委員・児童委員の活動しやすい仕組みづくり （健康福祉局地域福祉課）	民生委員・児童委員の負担を軽減するとともに、欠員の解消を図るため、活動しやすい仕組みづくりを進める。
「協同労働」モデル事業 （経済観光局雇用推進課）	「協同労働」により地域課題の解決や、生きがいづくり、収入の確保につながる、高齢者の「社会的起業」を促すため、地域人材の発掘・育成、勉強会の開催、事業化の支援などを行う事務所（プラットフォーム）を設置するとともに、個別プロジェクトの立上げを支援する。